

中央 PRIDE



夏休みスタート！しかしコロナ禍で……

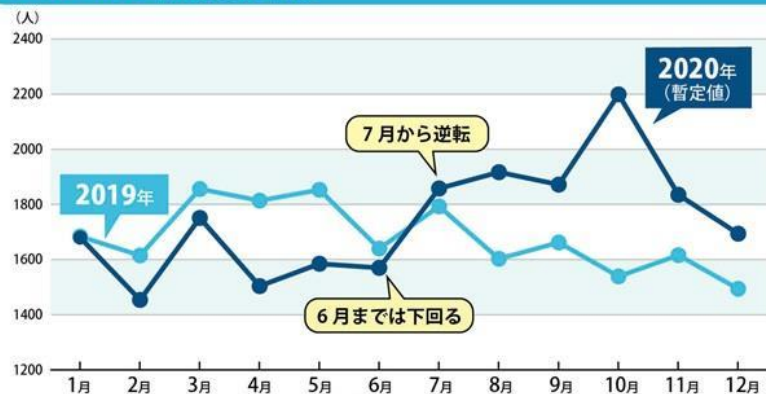
私たちは2020年に新型コロナウイルス感染症の報道から現在まで話題の絶えない日常を過ごしています。夏休みが始まり、旅行や外出など夏休みだからこそ出来る家族の時間があったことと思いますが、現在、自粛をすることで身体の不調や精神的な疲労が子供だけでなく大人にも見られています。厚生労働省の調べによると、自殺者数が2010年以降は減少傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染症の流行とともに、2020年7月以降は自殺者数が増加し、2万1,077人となりました。

2020年の自殺者数

出典：厚生労働省

上半期は前年を下回る自殺者数でした。しかし、コロナ禍の影響などにより、7月以降は増加傾向となり前年を超える結果となりました。

2019～2020年 月別自殺者数



出典：厚生労働省自殺対策推進室「警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等」月別自殺者数の推移（総数）

お家時間が影響？

自粛による影響は他にもあり、児童虐待のケースが増えてきています。児童虐待は大きく4つに分けられ、心理的虐待件数が50%を超え、次いで身体的虐待、ネグレクトと続いています。



出典：厚生労働省

身体的虐待

殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、濡れさせる、首を絞める、縄などにより一室に拘束するなど

子どもは、過度な身体的虐待が繰り返れると死につながる場合もあります。身体的虐待は、周囲からわかりやすく、発見しやすいものですが、洋服の下の見えない部分にだけ暴行を加える場合も。

心理的虐待

言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう（面前DV）、きょうだいへの虐待行為など

自尊心を傷つける言葉を繰り返し使うことや、ほかのきょうだいはまったく違う扱いをしたり、家族へのDVを目撃すること（面前DV）などは、子どもの心を傷つける行為です。

ネグレクト

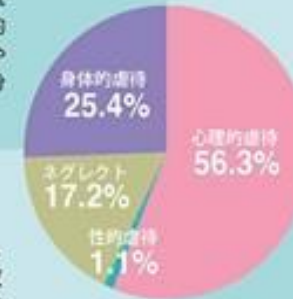
家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かないなど

安全や健康への配慮が著しく欠けると、子どもが死に至るケースもあります。病気なのに病院に連れて行かないことは「医療ネグレクト」と言われます。

性的虐待

子どもへの性的行為、性的行為を見せる、性器を触る、または触らせる、ポルノグラフィの被写体にするなど

暴力や脅しで口止めをされているケースも少なくなく、本人が告白するか、家族が気づかないとなかなか顕在化しません。開始年齢が早いと、子どもは性的虐待だと理解できないこともあります。



出典：令和元年児童虐待相談対応件数（速報値）



「育児は育自」

子育ては自分を成長させるもの。子供と同じように親も失敗する。時には子供に教えられることも。子供を大切にそして自分を大切に生きてほしいです。